

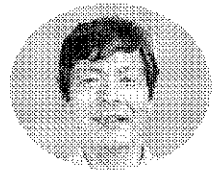
「植生は気候に適応して分布するだけでなく、気候をつくりかえています」

異常気象や気候変動は何か引き金になって起きるのか。アジアのモンスーン(季節風)の研究で知られる名古屋大学地球水循環研究センターの安成哲三教授は、植生などの生態系が気候に及ぼす影響に注目している。

「異常気象の原因としてエルニーニョ(南米ペルー沖の海水面温度が上がる現象)が話題になりますが、私たちはアジアのモンスーン、特にチベット高原の役割に注目してきました。広大な高原が太陽に暖められて熱源として働き、大気が大規模に循環してモンスーン



生態系が気候を決める？



安成 哲三氏

あります。チベットが標高ゼロから現在の五千メートルまで段階的に隆起したことで段階的に隆起したと

吸収し、大気を暖めてモンスーンの循環を強めるのです」

「一九八〇年代、英科学者のジェームズ・ラブロックは地球の気候が生命圏によって制御されるとする『ガイア仮説』を唱えました。この説は実証的でないとの批判を浴びましたが、植生と気候の関係という点では示唆に富んでいる。地球温暖化の予測でもこれまでの物理・化学的な方法論だけでなく、生命圏という視点を組み込む必要があります」

が生じる。近年、中国・長江流域の多雨や黄河流域の乾燥化が指摘されていますが、モンスーンの変動の影響です」

「一方、高原を覆う植生や土壌も無視できません。数値実験では植生や土壌がない場合(中国(モンスーン地域)の夏の降水量は実際の六割程度にしかありません。植物や土壌が太陽光を効率よく

「まず地形的な要因が

「まず地形的な要因が